

北海道支部ニュース 第57号

公社) 日本分析化学会北海道支部 2018 年 7 月

支部長挨拶



公益社団法人日本分析化学会
北海道支部支部長
伊藤 慎二 (北海道科学大学)

2018 年度の日本分析化学会北海道支部長を仰せつかりました北海道科学大学薬学部(旧北海道薬科大学)の伊藤です。私が日本分析化学会に入会したのは、北海道支部の第 2 回緑陰セミナー(真駒内、1986 年)に参加したのが切っ掛けでした。以来、30 年間余り北海道支部にお世話になってまいりました。今回、支部長の大役をお引き受けすることになり、今までの恩返しが出来ればとの気持ちで、日本分析化学会北海道支部のために頑張ってまいりたいと思います。

今年度も様々な行事が予定されていますので、会員の皆様におかれましては奮ってご参加いただければ幸いです。夏の行事としましては、7 月上旬に「第 34 回分析化学緑陰セミナー」が、北海道大学工学研究院の佐藤久先生を実行委員長として富良野にて開催されます。また、同時に九州支部との若手交流事業が、北海道大学地球環境科学研究院の山田幸司先生を世話人として行われます。この支部ニュースが発行される頃には報告記事も掲載される予定です。

さらに、7 月下旬には「化学系学協会北海道支部 2018 年夏季研究発表会」が北見で行われます。分析化学会の担当は北見工業大学の宇都正幸先生をお願いしております。

11 月には、「北海道地区化学教育研究協議会」が、北海道科学大学の三原義広先生を世話人として札幌で開催予定ですし、さらに、「2018 年度公開セミナー」を、北見工業大学の天津直史先生が北見開催で計画しております。年明けの 2019 年 1 月上旬には、会員交流の場として恒例の「冰雪セミナー」が行われます。第 54 回となる今年度のセミナーは、開催地が未定ではありますが、山田幸司先生にお世話いただくことになっております。ぜひ多くの支部会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

また、1 月下旬には「化学系学協会北海道支部 2019 年冬季研究発表会」が札幌で行われます。分析化学会の担当は、北海道大学工学研究院の渡慶次学先生をお願いしてあります。

北海道支部は分析化学会の中で最も小さな支部ではありますが、様々な支部行事におきまして活発に活動を続けてきました。また、年会や分析化学討論会の運営におきましても、オール北海道で一丸となり取り組んでまいりました。支部会員の皆様方のより一層の関わりを期待しておりますので、宜しくお願い致します。

(いとう・しんじ)

日本分析化学会 学会賞に 渡慶次 学 氏

9月12日(水)、13日(木)、14日(金)に開催される日本分析化学会「第67回年会」におきまして、学会賞等授賞式が執り行われます。北海道支部では北海道大学工学部渡慶次氏が学会賞を受賞されます。心よりお祝い申し上げるとともに、ますますのご活躍をご祈念申し上げます。なお、先生のご業績は「ぶんせき」誌にて紹介されますので、ぜひご覧ください。また、先生の受賞を記念いたしまして、本支部ニュース第58号に特別寄稿を予定しております。

2018 年度日本分析化学会 学会賞受賞者

渡慶次 学 氏

(北海道大学大学院工学研究院教授)

「機能集積化マイクロ流体デバイスの開発と分析化学への応用」

これからの行事予定



2018 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部 2018 年夏季研究発表会が、7 月 21 日(土)に北見工業大学(〒090-8507 北見市公園町 165 番地)において開催されます(主催:日本化学会北海道支部、共催:日本分析化学会北海道支部ほか)。今回は 104 件の口頭発表が 6 会場で行なわれます。また、特別講演として居城 邦治 先生(北海道

大学電子科学研究所)が「ナノ粒子集積体のボトムアップファブリケーションとバイオ・フォトニクスへの応用」と題して、また川合 眞紀先生(日本化学会会長・自然科学研究機構分子科学研究所)が「世界の化学会を目指して」と題して講演される予定です。



プログラム等の詳細に関しましては夏季研究発表会のホームページを御覧ください。

(<http://pcat.cat.hokudai.ac.jp/kakiken>)



懇親会は 同日 18 時 00 分よりオホーツクビール(北見市山下町 2 丁目 2-2)にて開催されます。発表会場から懇親会会場までの移動には、バスが用意されておりますので御利用ください。事前登録は既に締め切られておりますが、当日でも参加可能です。多くの会員の皆様にご参加頂ければ幸いです。

(北見工業大学・宇都 正幸)

2018 年度 公開セミナー

(現場の分析者 -大学技術職員から分析現場の現状を学ぶ)

日本分析化学会北海道支部主催の公開セミナーが、11 月上旬に北見工業大学で開催されます。

今年度のセミナーでは、大学などの公的研究機関で分析現場を支えている技術職員の方々からの講演を予定しております。精確な分析データを得るためには、分析装置の維持管理からデータの解析までを支えてくれている技術職員の存在が不可欠ですが、教員、研究者および学生たちがその仕事の内容や現状を詳しく知る機会は少ないと思います。貴重な機会ですので、皆様是非、北見まで足をお運び頂ければ幸いです。

日時：2018 年 11 月上旬(詳細日程は決まり次第ご連絡致します。)

場所：北見工業大学(北海道北見市公園町 165 番地)

講演内容：

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 「電子顕微鏡の分析現場の現状」 | 小林 恒誠 博士、東北大学工学部技術部 |
| 2. 「核磁気共鳴装置の分析現場の現状」 | 松田 弘喜 氏、北見工業大学技術部 |



(北見工業大学工学部
地球環境工学科
大津直史)

2018 年 北海道地区化学教育研究協議会

本会は教育研究所附属理科教育センターと日本化学会北海道支部化学教育協議会により準備運営され、日本化学会および日本分析化学会両北海道支部から支援されている行事です。昭和 30 年代初頭から 60 年以上に渡って開催されています。

化学教育に関する特別講演のほか、小中高校大学で化学教育に携わっている先生の提言も行われます。終了後、講師の先生も交えて懇親会も行われる予定です。多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

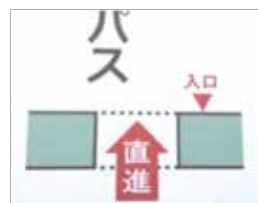
期日：2018 年 11 月 23 日(金・祝)10 時～16 時 30 分

会場：北海道科学大学サテライトキャンパス

(札幌市中央区北 3 条東 1 丁目 1-1 (JR 札幌病院隣接))



(写真上) 駐車場の
中を直進すると
右手に入り口(写真
真下)があります。



講演：特別講演(谷藤尚貴先生:米子工業高等専門学校)

および小中高等学校教諭並びに大学教員4名による研究発表(提言・取組)を予定しています。

参加費・懇親会・申込方法：

日本化学会北海道支部のホームページ

(http://homepage1.nifty.com/cs/jh/moyoshi_chikukagakukyoiku.htm)に近日掲載致します。

申込先：069-0834 江別市文京台東町 42 番地

北海道立教育研究所附属理科教育センター、北海道地区化学教育研究協議会係

佐藤 大

電話 011-386-4534、FAX 011-386-4977、E-mail:satohdai@hokkaido-c.ed.jp

(北海道薬科大学 三原義広)

これまでの終了行事報告



第53回 氷雪セミナー

第53回氷雪セミナーは、平成30年1月6日（土）、7日（日）の両日、定山溪万世閣ホテルミリオートで開催されました。分析化学とは専門の異なる北海道内の3名の若手の先生方に以下の話題をご提供いただきました。

1. バクテリアセルロース(ナタデココ)の材料への展開
(沼田ゆかり先生、小樽商科大学商学部)
2. 理論物理学から教育工学まで一学際的な活動を通して考えたこと
(今井匠太郎先生、北海道大学高等教育推進機構)
3. 無機材料に機能を！－わがままな研究生生活の一端
(高瀬舞先生、室蘭工業大学大学院工学研究科)

1日目は、13時30分より北海道支部長の加藤昌子先生（北海道大学大学院理学院）＝写真下＝に開会のご挨拶をいただいた後、夕方までに3件の講演すべてをお聞かせいただきました。参加者は27名（大学等18名、企業9名）で、多くの方々による質疑応答がきわめて活発に行われました。講演終了後は同ホテルにて夕食（懇親会）が開催されました。高橋英明先生（北海道大学名誉教授）にご挨拶と乾杯の音頭をとっていただき、各テーブルでそれぞれの話題で盛り上がった後に参加者からそれぞれ個性的な自己紹介をしていただきました。和やかな雰囲気の中で懇親会を終了し、集合写真を撮影した後、同ホテル内の別会場での2次会に移行しました。ほとんどの方にご参加いただき、遅



くまで大変盛り上がった会となりました。また、ホテルの広い温泉も楽しんでいたかったと思います。

2日目は、ホテル地下1階の大きなレストランにて各自朝食を済ませた後、9時より昨日の講演会場にて開始されました。各講師の方に前日の講演のまとめや追加項目などの説明をいただき、テーマに関わる個別の質疑応答や、これらのテーマと分析化学との関わりを考える全体ディスカッションを行いました。全く異なる分野の3件のご講演はいずれも新鮮で、研究内容だけでなく、それぞれの大学での教育事情など、さまざまな話題で議論が繰り広げられ、年始めの有意義なひとときになりました。最後に、片岡正光先生（小樽商科大学名誉教授）にご挨拶をいただき、閉会となりました。

ご講演を快くお引き受けくださった講師の先生方、ご参加いただいた方々、サポートしてくださった方々に心よりお礼申し上げます。加えて、

今年は参加費が例年より高く、また開催時期も3連休の最初の2日(土日)を利用するなど、昨年までとやや異なっておりましたが、皆様にご協力いただいたアンケート結果からは概ねご理解いただけたものと安心いたしました。重ねてお礼申し上げます。

来年度(平成30年度)の冰雪セミナーは、山田幸司先生(北海道大学大学院地球環境科学研究院)のお世話で開催される予定となっています。

(北海道大学大学院工学研究院・谷 博文)



←「バクテリアセルロース
(ナタデココ)の材料への展開」

沼田ゆかり先生
(小樽商科大学商学部)

「理論物理学から教育工学まで
一学際的な活動を通して考えたこと」

今井匠太郎先生

(北海道大学高等教育推進機構) →



←「無機材料に機能を！
—わがままな研究生生活の一端」

高瀬舞先生
(室蘭工業大学大学院工学研究科)



懇親会の風景→

2018.1.6(土)、7(日)
定山溪万世閣ホテルミリオーネにて





「第 53 回氷雪セミナー」参加者集合写真、定山溪万世閣ホテルミリオーネにて

化学系学協会北海道支部 2018 年冬季研究発表会

化学系学協会北海道支部 2018 年冬季研究発表会(共催:日本分析化学会・日本化学会・触媒学会・電気化学会・腐食防食学会・表面技術協会・石油学会の各北海道支部)が、2018 年 1 月 16 日(火)・17 日(水)の両日、北海道大学フロンティア応用科学研究棟で開催されました。195 件の一般講演(口頭発表 98 件およびポスター発表 97 件)と1件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や議論がありました。

特別講演には、東京大学生産技術研究所の竹内昌治先生をお招きし、「バイオハイブリッド技術が拓く医療・環境計測」と題してご講演いただきました。

また例年通り、学生の講演に対して優秀講演賞が選定され、各所属校で受賞者へ表彰状を

授与しました(口頭発表 9 件、ポスター発表 2 件)。参加登録者数は 394 名(一般 116 名、学生 278 名)でした。1 月 16 日(火)の 18 時から、北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにて懇親会が開催されました。竹内先生を含め 63 名(一般:32 名、学生:31 名)の参加のもと、盛況な会となりました。

2014 年冬季研究発表会から、経費削減と実行委員の負担軽減のため要旨集の電子化と参加申込の web 登録(受付での用紙記入による当日登録の廃止)を実施し、方式変更 5 年目でしたので問い合わせも少なく、当日の受付においても混乱は生じませんでした。2016 年からプログラム集を廃止して、クリアファイルを導入するスタイルを今年も踏襲しました。この簡略化に対して大

きな問題が生じていないため、このスタイルを今後も続けていきたいと考えています。

今年は昨年に引き続きフロンティア棟の使用料が値上げされましたが、会場の予約を昨年に行っていたため、会場使用料は据え置きにしてもらえました。来年の会場は北海道大学触媒科

学研究所を予定しており、会場費が安くなる予定です。来年以降の会場については各学協会及び支部長連絡会で検討していただく必要があります。今後とも冬季研の運営にご理解とご協力いただければ幸いです。

(北海道大学大学院工学研究院・渡慶次 学)

第34回 分析化学緑陰セミナー

第34回分析化学緑陰セミナーが2018年7月7日(土)、8日(日)に富良野市の「くつろぎの宿北誠荘」で開催され、道内各地の大学から講師4名を除いて44名の参加がありました。

今年度は環境工学における分析化学の応用をテーマに、東京大学の春日郁朗先生より「フーリエ変換質量分析から探る溶存有機物の分子組成」、中央大学の丁青先生より「In-situ 固体3次元励起蛍光スペクトル分析法による膜ファウリング原因物質・メカニズムの推定」、若手交流事業として九州支部からお招きした九州大学の森健先生より「バイオオルソゴナル酵素化学による細胞分析」、昨年度約1年間海外留学されていた酪農学園大学の中谷暢丈先生より「留学体験記:オーストラリアACROSS 研究所に留学して」といったタイトルでご講演いただきました。

ここでお気づきの方も多いかと思いますが、毎年緑陰セミナーでは5名の講師の方をお招きしております。今年も5人目の

講師として広島大学の金田一智規先生より「分子生物学的手法により発見されたアナモックス細菌と排水処理」というご講演をいただく予定でしたが、直前に発生した西日本の水害により、7日午前中に広島空港までたどり着けないということでご講演いただくことが叶いませんでした。緑陰セミナーまでは北海道も雨が続けておりましたが、緑陰セミナー当日は雨も上がり、2日目は久しぶりの青空となりました。

今回の緑陰セミナーでも前回に引き続き「優秀質問賞」を設けました。これが奏功し招待講演は活気のあるものとなりました。私の専門が環境工学であるため、多くの参加者にはなじみが薄い環境工学に関する研究者を講師としてお招きしましたが、参加者の皆様は鋭い質問を多数していただき、主催者としては大変満足いたしました。講師のお二人も、多くの有意義な質問



をいただいた、普段見られない研究内容に触れられた、と大変満足されて帰ってゆかれました。ちなみに「優秀質問賞」は2名に授与されました。各賞の最優秀者には北海道支部の60周年記念の記念品であるUSBメモリが副賞として送られました。講演会場は畳の部屋で、椅子や机はなく、皆さん畳に座って講演を聞くというあまり見られない光景となりました。

セミナー1日目の3件の招待講演の後、参加学生による20件のフラッシュプレゼンテーションとポスター発表を行いました。会場となった北誠荘は緑陰セミナーで初めて使う旅館であり、ポスターパネルはありませんでしたが、壁に画びょうでポスターを留めても良い、ということで、一風変わったポスター発表会場となりました。

ちなみに講演でスライドを映したスクリーンは、シーツを天井からつるしたものです。お気づき戴けましたでしょうか。壁に張ったことでポスター間の間隔は広くとれ、ポスター会場はゆったりした発表空間となり、比較的短時間のポスターセッションではありましたが、すべてのポスターで熱のこもった討論が行われていたのが印象的でした。

発表修了後、一般会員と招待講演講師による審査・採点を行い、4件の発表に「優秀発表



賞」が授与されました。

1日目の夜の懇親会も講演会場で行われたため、椅子も机もない畳の部屋であり、全員で畳に座って行われました。これも一風変わった懇親会でしたが、移動しやすく多くの参加者と話ができ、と前向きな感想もいただきました。緑陰セミナーの目的の一つでもある、分析化学に携わる北海道支部の学生・若手研究者などが一堂に会して情報交換や討論を通じて交流を深めるという目的は十分に達成されたものと自負しております。大部屋で宿泊する経験が薄い最近の学生には敬遠されることも少なくない緑陰セミナーですが、少々重い腰を上げて参加してみると想像以上に楽しい時間を過ごせるものです。是非来年はより多くの学生を誘って参加していただきたいと思います。

(北海道大学大学院工学研究院・佐藤 久)



懇親会の様子
くつろぎの宿北誠荘にて 2018.7.7-8

2018 年度 事業計画

開催日	事業名	開催地	担当幹事
-----	-----	-----	------

【2018 年】

5 月 11 日 (金)	第 1 回幹事会	札幌	支部長
7 月 7-8 日 (土-日)	第 34 回分析化学緑陰セミナー	富良野	佐藤 久
同上	若手交流事業 (九州支部から講師招聘)	同上	山田幸司
7 月 21 日 (土)	2018 年夏季研究発表会	北見	宇都正幸
7 月中旬	支部ニュース第 57 号	-	真栄城正寿 佐々木隆浩
9 月中旬	2019 年度役員候補者選考委員会	札幌	支部長
10 月上旬	2019 年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2018 年度北海道分析化学各賞受賞者選考委員会	札幌	支部長
10 月予定	第 2 回幹事会	札幌	支部長
11 月予定	2018 年度公開セミナー	北見	大津直史
11 月 23 日 (金・祝)	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	三原義広
12 月中旬	支部ニュース第 58 号	-	真栄城正寿 佐々木隆浩

【2019 年】

1 月予定	第 54 回氷雪セミナー		山田幸司
1 月中旬	化学系学協会北海道支部 2019 年冬季研究発表会	札幌	渡慶次学
1 月中旬	2018 年度北海道分析化学各賞授賞式	札幌	支部長
2 月下旬	審議会 (第 3 回幹事会)	札幌	支部長

2017 年度 会計報告の概要

【支 出】

臨時雇賃金	240,000
会議費	63,606
旅費交通費	161,560
通信運搬費	52,510
消耗品費	50,725
印刷製本費	26,323
支払助成金	280,000
内部支払助成金	651,731
委託費	32,940
表彰費	182,720
雑費	3,294
支出合計(B)	1,745,409

【収 入】

支部費	840,500
印税収入	40,700
受取利息	29
収入合計(A)	881,229
当期収支差額(A-B)	△864,180



2018 年度 支部役員

支部長	伊藤 慎二	北海道科学大学
副支部長	蠣崎 悌司	北海道教育大学
	渡慶次 学	北海道大学
庶務幹事	三原 義広	北海道科学大学
	三浦 篤志	北海道大学
会計幹事	石田 晃彦	北海道大学
	坂入 正敏	北海道大学
監事	加藤 昌子	北海道大学
	宇都 正幸	北見工業大学
他	参与 17 名・幹事 41 名	
事務局秘書 氏間 多伊子	〒006-8585 札幌市手稲区前田7条 15 丁目 4-1 北海道科学大学内 公益社団法人日本分析化学会北海道支部 支部長 伊藤 慎二 TEL :011-676-8618 E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp	

支部会員の欄

この欄では北海道支部の転入や転出、新入会などの情報をお伝えします。「ぶんせき」誌(2017年12月号～2018年5月号)「お知らせ欄」から転載しています。

なお、今春以降にご入会の会員は次号に掲載させていただきます。

新入会のみなさん (敬称略、順不同)

清田雄平 (北海道大学大学院工学研究院)
佐藤浩輔 (北海道医療大学薬学部)
高瀬 舞 (室蘭工業大学)
菊地優仁 (北海道大学大学院総合化学院)
近藤恵文 (北見工業大学大学院工学研究科)
水上良平 (北海道大学大学院総合化学院)
山口拓郎 (北海道大学大学院工学院)
吉原 光 (北海道大学大学院工学院)
Lee Chui Shiang (北見工業大学大学院工学研究科)
沼田ゆかり (小樽商科大学)
工藤裕貴 (北海道大学大学院総合化学院)
和田明香里 (北見工業大学工学部)



編集後記



支部ニュース第57号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご執筆頂きました伊藤支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。本号から真栄城(北海道大学大学院工学研究院、留任)と佐々木(北海道医療大学、新任)の二人体制で編集を行なっています。北海道支部の活動がますます活発になりますようにニュースを通じて貢献したいと思います。今回、新入会の皆様を迎え、今後も益々活発な支部活動となるように尽力してきたいと思いますので、今後とも、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

(編集委員 : 真栄城正寿、佐々木隆浩)

公益社団法人日本分析化学会北海道支部事務局

札幌市手稲区前田7条15丁目4-1北海道科学大学薬学部内
支部長 伊藤慎二

TEL : 011-676-8618

E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp

URL : <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

北海道支部ニュース第57号

編集・発行

公益社団法人
日本分析化学会北海道支部

発行日

2018年7月20日